愛知教育大学附属高等学校研究紀要第42号
pp.113～117（March, 2015）

本校の掲げる進路指導の基本的課題を達成するための、総合的な学習の時間の構築とその実践（第１年次）

第１学年　松井孝彦、小田原健一、堀田景子、加古久光、田中見佳、神谷　舜、
天羽　康、渡邉寛吾、長根智洋、林田香織、黒岡孝信

平成25年４月より新学習指導要領が全面実施となり、教科のみならず総合的な学習の時間においても新しい目標の下で教育活動に取り組んでいくことが必要であると考えた。そこで、本校における総合的な学習の時間におけるカリキュラムを見直し、進路指導を基軸としたカリキュラムを新たに構築し、その一部を実践した。ここでは、カリキュラムの全体像を述べ、第１学年における実践の概略を報告する。

＜キーワード＞総合的な学習の時間　探究活動　進路指導

１　はじめに

総合的な学習の時間は､学校教育法施行規則第83条において各学校の教育課程上必置とされている。しかし、「大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られる」（高等学校学習指導要領解説 p. 4）という問題点が指摘されている。

本校における総合的な学習の時間では、２年次の修学旅行の訪問地に関する調査・追究活動を行うこと以外は、毎年学年独自の活動が行われているようであった。それぞれの活動は生徒の実態にあった内容で構成されていたため、生徒が活発に行動する様子がよく見られたようであったが、一つ一つの活動が独立しており、３年間に及ぶ活動の継続性があるとは言いがたい状況であった。そのため、総合的な学習の時間を通してどのような力を育てたいかが明確になっておらず、力がどの程度養われたかを検証する手段と方法を構築することが難しかった。

そこで、新学習指導要領の全面実施を受けて、３年間に渡る柱となるべきテーマを設定し、「探究的な学習」[1] を通して「協同的」に取り組む態度の育成[2] 等を促すカリキュラムを作成することが必要であると考えた。

２　進路指導を柱とした構想案の作成

『高等学校学習指導要領』第４章第１に、総合的な学習の時間の目標が次のように示されている。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。（p. 292）

また、第４章第２「各学校において定める目標及び内容」の「１ 目標」には、「各学校においては、

第１の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める」と、「２ 内容」には「各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める」と、それぞれ書かれている。

そこで、まず「自己の在り方生き方を考えることができる」という点に注目し、３年間に渡る柱となるべきテーマを進度指導に設定しようと考えた。

次に、本校の学校要覧に記載されている進路指導の指導理念に注目をしたところ、「進路指導の基本的課題」として掲げられている中の３点が、『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』に示されている「取り組むべき内容」と「活動」とに合致していると考えられた。加えて、本校の「進路指導活動目標」に注目をしたところ、指導要領に示されている総合的な学習の時間の目標と重なり合う点がきわめて多いことに気付いた。

以上のことから、新しく本校における総合的な学習の時間を構築するにあたり、その内容と活動を、本校の掲げる進路指導の基本的課題を達成するためのものにしていくこととした。

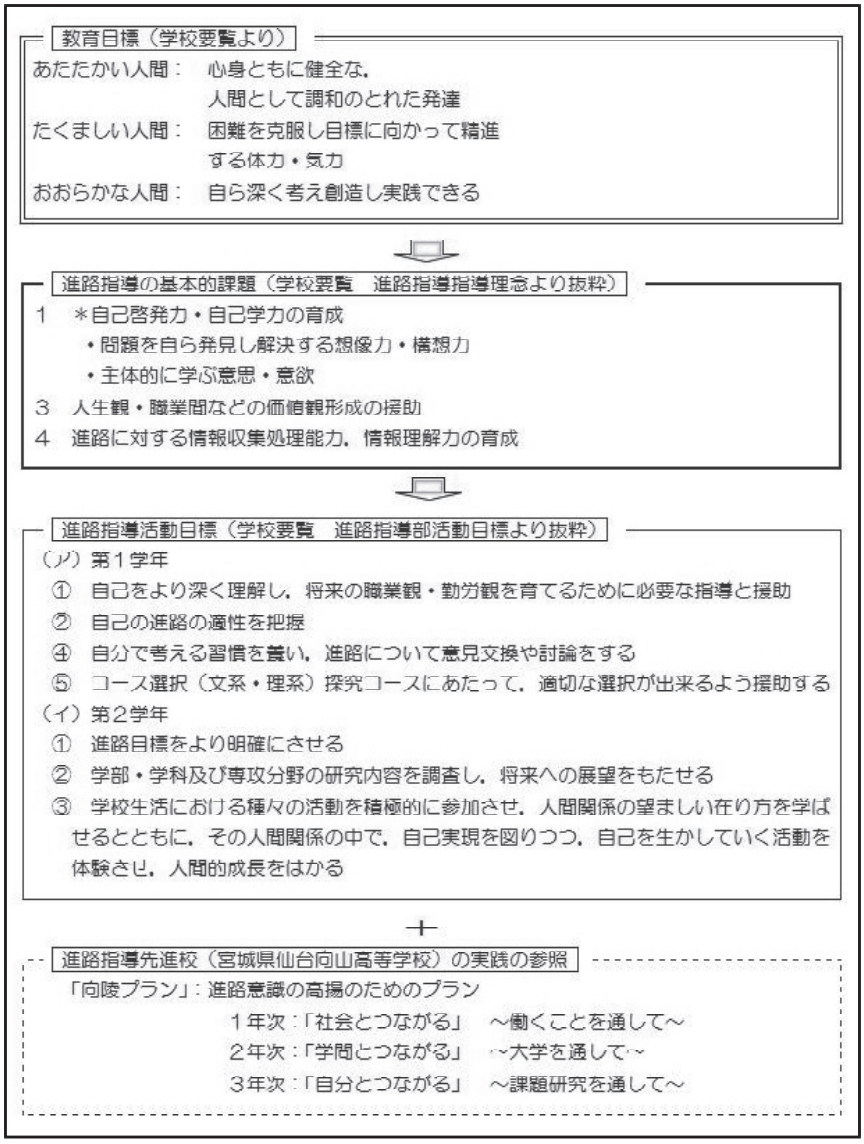

図１　総合的な学習の時間　構想図

３　ねらいと主な活動の設定

総合的な学習の時間を通して進路指導に取り組んでいる中学校や高等学校は多い。そこで、先進的な実践例をいくつか調べてみたところ、宮城県立仙台向山高等学校の取り組む『未来を拓く「向陵プラン」～社会とつながり、人とつながる～』という実践が、本校の進路指導の基本的課題を達成させるための参考になると考えた。「向陵プラン」では、１年次に職業を、２年次に学問を、それぞれ生徒の興味・関心に応じて調査させている。そして、１・２年次の調査を通して生徒一人一人に課題を設定させ、追究させることによって、生徒に実社会と関わることのできる資質を養わせようとしている。

本校の進路指導活動目標を見てみると、第1学年では職業観･勤労観を養うこと、第２学年では学部･学科及び専攻分野について調査をすることが、それぞれ目標として設定されている。これは「向陵プラン」と同様の進度となっている。

そこで、各学年のねらいを図２のように設定し、それぞれのねらいを達成させるための主な活動を考えた。

ねらいを達成させるためには、職業や学問に関する詳細な知識が必要となる。これまでの本校の生徒は、中学校で職業についての学習や職業体験をした者もいるが、体験をした職業以外については詳しく知らないという者が多かった。また、大学の学部・学科に関する知識についてはほぼ全員がもちあわせていなかった。そこで、職業や学部・学科に関する予備知識を学ばせるために、市販されている進路教材を用いることとした。

４　第１学年の実践日程と実践内容

本年度の総合的な学習の時間の日程を、図３のように設定した。例年行われている、修学旅行の準備のための活動（２月以降）と進路指導行事である分野別説明会に関わる活動（７月～９月）以外は、本校第１学年進路指導活動目標を達成するための活動を行うこととした。

はじめに、３年間に渡る一般的な進路日程の説明をした。そして、第１学年で取り組む探究活動について、図４の学習プリントを用いて日程と活動内容を説明した（４月24日）。

探究活動を行う前に、まず、本や雑誌等といった身近にあるものが完成するまでに、または携帯電

1．ねらい

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して，自己の在り方生き方を考えることができるようになる（高等学校学習指導要領より）。そのために，

○　自己の適性を知り，自分と社会・自然とのかかわりと，社会課題・自然課題と職業とのかかわりについて深く考察することができる（第１年次）

の３点を学年目標とする。

2．主な活動

第１学年：　『進路サポートを用いた活動』
「進路探しを始めよう」「仕事研究をしよう」「社会について知ろう」
『R－CAPを用いた適性理解活動』
『社会・自然課題と職業に関する探究活動』
『分野別説明会』
（修学旅行：沖縄事前授業）

第２学年：　『進路サポートを用いた活動』
「学問研究をしよう」「オープンキャンパスに参加しよう」
「大学について知ろう」「大学入試について知ろう」
『職業と学問との関わりについての探究活動』

第３学年：　『学問別追究活動』（※文系・文理系・人間探究のみ。理系は理科の課題研究）

補足：　『社会・自然課題と職業に関する探究活動』
『職業と学問との関わりについての探究活動』
『学問別追究活動』の三つが，学級の枠をこえた探究活動となる。

図２　総合的な学習の時間のねらいと主な活動

平成26年度　第42回生　総合日程案

4月17日（木）	進路オリエンテーション
24日（木）	探究活動説明 ＋ R-CAP説明
5月　1日（木）	R-CAP取り組み
8日（木）	進路サポート　「B　進路探しを始めよう」
15日（木）	進路サポート　「E　仕事研究をしよう1」
22日（木）	進路サポート　「F　仕事研究をしよう2」
26日（月）	進路サポート　「K　社会について知ろう」第1時
29日（木）	進路サポート　「K　社会について知ろう」第2時 ＋ 探究活動希望調査
6月　5日（木）	R-CAPの見方説明＋類型選択についての説明
19日（木）	探究活動：　班別行動開始
26日（木）	探究活動：　班別課題決定
7月10日（木）	分野別説明会の説明 ＋ オープンキャンパス参加について
夏期休業中	探究活動に関する調査，オープンキャンパス参加
9月中	分野別説明会に関する活動
10月16日（木）	類型仮登録について
23日（木）	探究活動：　発表方法についての指導
30日（木）	探究活動：　調査内容の班内発表，さらなる調査についての検討
11月10日（月）	探究活動：　調査活動　or　調査内容の班内でのまとめ
13日（木）	探究活動：　調査内容のまとめ，発表構想
20日（木）	探究活動：　発表準備
27日（木）	探究活動：　発表準備
1月　8日（木）	探究活動：　発表準備，練習
15日（木）	探究活動：　発表
22日（木）	探究活動：　振り返り
2月　5日（木）	修学旅行ガイダンス
9日（月）	修学旅行　事前授業①
12日（木）	修学旅行　事前授業②
19日（木）	修学旅行　事前授業③
3月　5日（木）	修学旅行　事前授業④
12日（木）	修学旅行　事前授業⑤ ＋ 沖縄探究活動説明

図３　第１学年の総合的な学習の時間日程表

平成26年度
42回生第１学年
総合的な学習の時間

社会とつながる探究活動

～ 社会・自然の課題と職業とのかかわりを探して ～

義務教育を終えたみなさん。みなさんはこれから社会へ出ていくために，様々な準備をしていきます。「社会に出ていく」ということは「社会とのかかわりをもつこと」を意味します。そこで，高校１年では，人と社会とのかかわりについて調べていきましょう。

社会に存在する様々な課題は，様々な職業とかかわりがあります。人は，職業を通して社会の様々な課題とかかわりをもっていきます。

そこで，みなさんには，

① **現代社会における諸問題・課題についての知識を深めること**
② **社会の中における職業・仕事の役割や貢献について理解を深めること**

の２点を目標に，諸活動に取り組んでいきます。

１．どのような活動に取り組むの？

みなさんは，中学校で職業について学んだことと思います。また，職業体験をした人も多いことでしょうね。高校では，以下のような活動に取り組み，「人と社会とのかかわり」そして「自分と社会とのかかわり」を学んでいきます。

(1) 「自分について知ろう」
- アンケートに答えながら，自分の適性と，自分に適した職業・学問について知る。

(2) 「仕事・社会について知ろう」
- 一つの結果（例：「本の出版」「携帯電話の販売」）に至るまでには，様々な職業がかかわっていることを知る。
- 社会に起きている諸問題（例：「地球温暖化」）に対して，様々な職業がその解決に取り組んだり，解決方法を模索したりしていることを知る。

(3) 「社会・自然課題と職業とのかかわりについて調査し，発表しよう」　※探究活動
- 実際に社会で起こっている社会・自然課題と，その解決に取り組んだり解決方法を模索したりしている職業について，より具体的に調査をし，まとめ，発表する。

(4) 「仕事・社会・自分とのかかわりをまとめよう」
- (1)～(3)の学習内容をもとに，社会の中で，自分がどのような職に就き，自分がどのように社会とかかわることができるかをまとめる。

２．なぜ探究活動に取り組むの？　どのようなことをするの？

１(3)で探究活動に取り組んでもらうことが書かれています。探究活動とは，あるテーマに対して，一人一人が自ら資料を集め，調査し，追究を深め，一つの結論をまとめる活動のことです。

－１－

附高では，ただ大学等に合格することを目標としているわけではありません。大学入試後から社会生活の中で求められる「問題を自ら発見し，解決する想像力・構想力」や「主体的に学ぶ意思・意志」をもった人間を育てることも目標にしています。そのためには，探究活動を行うことが最も適しています（なお，３年生の理系では「課題学習」という探究活動を行うことになっています）。

具体的には，以下のような日程で，以下のような活動に取り組んでいってもらいます。活動内容における詳細については，直前になったところで連絡をします。

日	活動内容
5/26(月) 5/29(木)	進路サポート「社会について知ろう」に取り組む。そこで取り上げられている５つの分野から，自分の興味ある分野を選択し，その分野における追究課題を考える。
6/19(木)	分野別に分かれ，同じような追究課題をもつ人とグループを組む。グループの追究課題を考える。
6/26(木)	グループの追究課題を決定し，各自が夏休みに調査する内容を確認する。
夏休み～	各自で，追究課題に関する調査を行う。
10/23(木)	1/15に行われる発表会について知る。 各自が調査した内容を，グループ内で発表し合う。
10/30(木)	前時に引き続き，グループ内で発表をし合う。そして，まだ調査が必要なことがないか，グループ内で確認する。
11/10(月)	必要な調査活動を行う。
11/13(木)	必要な調査活動を行う。グループで調査内容のまとめをはじめる。
11/20(木)	調査内容のまとめを行いつつ，発表の準備をはじめる。
11/27(木)	発表準備を行う。
冬休み	発表準備に必要なことがあれば，それを行う。
1/ 8(木)	発表準備と発表練習を行う。
1/15(木)	体育館でグループ発表を，ポスター発表形式で行う（６・７限）
1/22(木)	探究活動全体を個人で振り返る。

３．最初の活動「自分について知ろう」について

次週，最初の活動「自分についてしろう」を行います。みなさんには『R-CAP for teens』というアンケートに取り組んでもらいます。およそ１ヶ月後に，一人一人に適した「満足できそうな職業Top20」と「満足できそうな学問Top20」が分析結果として届きます。

リクルートは，約３万人の「社会で活躍する社会人」と「大学院生，大学院進学希望者」のデータを集め，分析をしました。『R-CAP for teens』では，みなさんのアンケートの結果と，その「社会で活躍する社会人」「大学院生，大学院進学希望者」のデータとを比較し，みなさんにもっとも適した「職業」と「学問」を教えてくれます。つまり，結果で示された「職業」や「学問」は，みなさんが「満足を感じたり」「活躍できたり」できる可能性が十分にある，ということを示しています。

１時間で取り組むには量がそこそこありますが，適当に回答するのではなく，素直な気持ちで回答するようにしてください。きっと十分参考になる結果が届くことでしょう。

－２－

図４　探究活動ガイドプリント

話の使用等といった普段利用している様々なサービスが成り立つまでに、それぞれ数多くの職業が関わっていることを、市販の進路教材を用いて学習した。次に、実際に社会で起きている諸問題や自然に関するいくつかの課題について、たとえそれが一つの問題や課題であったとしても数多くの職業がその解決に携わっていることを学習した。そして、図４のような日程と内容で探究活動に取り組んだ。

５　おわりに

社会や自然の問題・課題と職業との関連について調査することが難しいという声が聞かれたが、生徒同士、また生徒と教師とで協力し合いながら活動を進めていくことができた。本原稿の執筆段階では振り返りが終わっていないが、本カリキュラムは「探究的な学習」を通して「協同的」に取り組む態度を育成するための一助になったいたのではないかと考える。

次年度は、社会や自然の問題・課題を解決する職業に就くためには、大学でどのようなことを学ぶ必要があるかという視点を足がかりとし、学部・学科に関する探究活動を行っていきたい。

註

１），２）どちらも、『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』第３節１（p. 6）にて、総合的な学習の時間がこれまでも大切にしてきた内容として示されている。

参考文献

宮城県立仙台向山高等学校ホームページ　http://mukaiyama.myswan.ne.jp/index.html（2014年３月20日）

文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領」 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf（2015年１月15日）

文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_19.pdf